

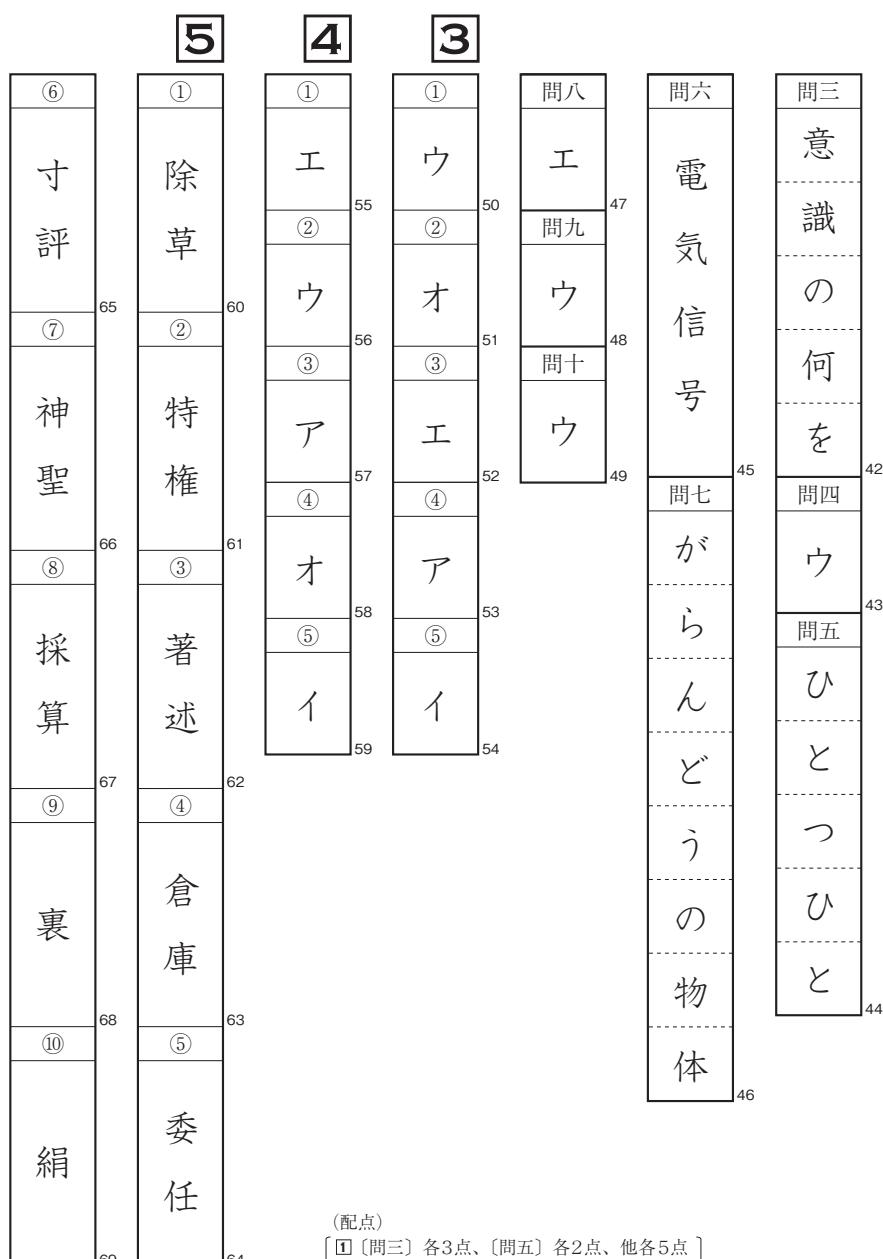
# 小学六年

# 国語

## 解答と解説

問二			
う	う	反	医
意	用	応	学
味	語	と	的
で	の	い	な
あ	意	う	意
る	識	意	味
と	は	味	で
い	注	だ	用
う	意	が	い
違	を	、	る
い	向	日	意
。	け	常	識
る	的	は	
と	に	脳	
い	使	の	

2	問一	問十	問七	問五	1
	1 工	み ん な と 一	中 学 三 年 の	i 工	イ 21
	2 イ	33	問十一 今 度 は グ ラ	ii イ	工 22
	3 ウ	37	問八 ア	iii ウ	問三 ③ イ 23
			問九 ウ	問六 バ	⑤ ウ 24
				問七 ツ	問四 と り 25
				テ イ ン	ど り



(配点)

{ [問三] 各3点、[問五] 各2点、他各5点  
 [問一] 各2点、[問二] 7点、他各5点  
 [③④⑤] 各2点 } 計150点

## 【解説】

藤岡陽子の『僕たちは我慢している』(COMPASS)から出題しました。

高校一年生の道人は、小さい頃から野球をしていました。難関中学校に合格した際も野球部に入部し、三年間仲間たちと汗を流しました。中学まで野球を辞めて大学受験に向けて勉強に集中することにした道人ですが、ある日ふと、野球部の練習を見に行くことにしました。本文はこれに続く場面です。

## 問一 B1 関係づけ 比較

① ( ) を含む文の先頭に「だから」とあることに注目します。直前の文には「これまで生きてきた十五年間のうち八年間は野球をしていた」とあります。それほど野球に打ち込んでいた道人が野球部を辞めたあとの一ヶ月間ですから、心に穴があいたような喪失感を持つていることがわかります。以上のことから、イが正解となります。

## 問二 B1 具体化 比較

揮一にグラウンドに入つてくるよう言われた道人でしたが、直後に「え、だめだよ……。だつて僕、部外者だし」といったらん断っています。ここから、道人自身が野球部を辞めた身であることを強く気にしていることがわかります。ただし、その後名城に「いいよ、入つてこいよ」と言われたときは「名城さん、ほんとにいいんですか……」と言つており、グラウンドに入ることを本心ではいやがつてはいないこともわかります。これららの気持ちは、1ページ下段に「部外者が練習場に入つていののかといふ躊躇いと、かつていた場所に戻つてきた高揚感」

とまとめられています。以上のことから、エが正解となります。  
ア「気さくに話しかけられることにとまどつていて」、イ「誰だれとも気づかれないように」、ウ「久しぶりに野球ができると思い」がそれぞれ誤っています。

## 問三 A2 知識 比較

語句の意味を答える問題です。基本的に辞書の意味がもとになっています。それをふまえたうえで文章中での意味をとらえましょう。知らなかつた言葉がある場合は、できるだけ例文の形で覚えるようにしましょう。

③「しつくりする」は、何かと何かがぴったりと合つて調和している様子を表す言葉です。逆に、何か違和感がある場合は「しつくりしない」という言い方をします。したがつて、イが正解となります。

⑤「リップサービス」は、相手をいい気分にさせるために言うお世辞や耳あたりのよい言葉のことです。したがつて、ウが正解となります。

## 問四 A2 知識 関係づけ

色とりどり、で何かの種類や色がたくさんある様子を表します。ここでは、屏に立てかけられているさまざまなバットのことを表しています。

## 問五 B1 関係づけ 比較

適当な副詞を空らんに入れる問題です。

i

褒められて心が舞い上がる道人の様子を表しています。「舞い上がる」という言葉と合わせていることを考え、エ「ふわふわと」が入ります。

ii 挿一と道人のキャッチボールを腕組みをしながら眺めていた英信がどのような言い方でこの言葉を言ったかをとらえましょう。英信の言葉を確認すると「やっぱ違うな、ミッキーは」と道人の野球選手としてのセンスの良さに感じ入っています。これに合うのはイ「しみじみと」です。

## 問六

B1

置換

iii グラウンドを去った道人の心に「やっぱり野球がしたい」という思いが広がっている場面です。心の中で気持ちが広がっていくという表現に合わせ、ウ「ざわざわと」が入ります。

問七

B1

理由 関係づけ

道人が「これ以上練習の邪魔はできない」と考えたのは、自分がすでに野球部を辞めており今は「部外者」とあると考えているからです。すでに野球部を辞めているという内容に当たる言葉を探すと、3ページ上段に「(道人を含めた十四人は)中学三年の夏を最後に引退した」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八

B1

具体化 比較

英信がどのようなつもりでこの発言をしたのかということについて、英信自身が直後の場面で語っています。3ページ上段に「試合にはなんとか出られるけれど、それでもぎりぎりの人数だからちょっと不安なんだ」とあり、もしかして道人が野球部に戻ってくる気になつたのではないか、そうだとしたら人数の不安が少しは解消されるのではないかと考えていることがわかります。以上のことから、アが正解となります。イ「背中を押してやろう、ウ「道人に不満がある」、エ「これで三年の先輩たちが卒業しても大丈夫だ」がそれぞれ誤っています。

問九

B1

具体化 比較

—線⑥に「やっぱ」とあるように、名城はもともと道人の野球のセンスについてよく知つており、久しぶりにボールを受けたことで「(前々から知つていたけれど)やはり道人はいい球を投げる」と言っています。このような道人の野球のセンスは、2ページ下段にある「バッティングマシンマン」という言葉で簡潔に言い表されています。この言葉は、「コントロールのいい道人につけられたあだ名」であつた、と書かれています。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

—線⑨の「静寂」とは、キャッチボールをしている間言葉を交わさないことを指しています。無言でボールをやりとりしているだけなのに、「饒舌(よくしゃべる)」であるかのように感じる、ということです。無言でボールを投げ、受け取つたり、自分の考えていることが相手に伝わつたりする感

覚がある、ということです。したがつて、ウが正解となります。

ア「活発な会話が生まれ」、イ「片手間に相手と話をしよう」という気持ちがうすれ、エ「キヤツチボールどころではなくつてしまふ」がそれぞれ誤っています。

#### 問十 B1 具体化・関係づけ

——線⑩直前で、揮一と英信が道人の投げたボールを褒めてくれています。道人自身も、「肩かたがほどよく温まり、まだまだ投げられそうな気がした」と感じており、野球への情熱が呼び覚まされていることが読み取れます。ここで「炎ほのお」が生まれますが、直後の場面で道人は自分自身でこの「炎」を消してしまっています。それは「これ以上この場所にいると決意が揺らいでしまいそう」と感じたからです。その決意とは、4ページ上段の「自分は野球より勉強を選んだ」という決意、もう野球部には戻らないという決意です。これを搖るがしてしまったような野球への思いが書かれている部分を字数の条件に合わせて探しましょう。すると、4ページ下段に「みんなと一緒に野球がしたい」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

#### 問十一 B1 関係づけ

抜けている文を元の場所に戻す問題です。まずは抜けている文そのものから「その文の前にあるはずの情報」「その文の後に続くはずの情報」を考え、本文のどのあたりの話か、ある程度見当をつけてから探ししましょう。

「第二球」「再び横つ飛び」という表現が脱文中にあることか

ら、「第一球」や「横つ飛び」をしている場面を探します。3ページ下段に「揮一の第一投は胸の前で構えたグラブには収まらず、左に大きく逸れていく。横つ飛びをして球を止めようとしたけれど、捕ることはできなかつた」とあり、ここに「第一投」「横つ飛び」が出てきています。「第二球」を投げているのは、これに続く「よし。次ナックルな」の後です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

#### 2 渡辺正峰『意識の不思議』(筑摩書房)

「意識とは何か」という疑問について、実際にそれを研究している立場からくわしい説明を試みている文章です。

#### 問一 B1 関係づけ・比較

空らんにあてはまる接続詞を考える問題です。選択肢になつてある接続詞そのものの働きを確認し、前後内容と照らし合せてふさわしいものを選びましょう。

『1』の直前には、歌うときやスボーツをするときに腹筋を意識するように言われる場合の「意識」について書かれています。これに対しても直後では、無意識にお菓子かしを食べてしまつたというときに使う「意識」について書かれています。「意識」という言葉を使う複数の場面を並列していることから、エ「また」が入ります。

『2』の直前には、「ジャンルも演奏に使う楽器もそれぞれ異なる」とあります。これに対して直後には、「いく

つもの音が重なることによつて成り立つてゐるといふ点では共通している」と、共通点が書かれています。前後が対になる内容になつてゐることから、イ「しかし」が入ります。

『3』の直前まで、音楽と音の関係を持ち出して素朴な意識と複雑な意識の関係が説明されています。『3』で話題を少し変え、素朴でシンプルな意識とは何かという話が新たに始まっています。話題を変えていることから、ウ「さて」が入ります。

## 問二 B2 具体化 推論

医学的な意味での意識と日常的に使う用語としての意識について説明している部分を本文から探しめしよ。——線①まで の部分に、日常的に使う用語としての「意識」に「注意を向ける」という意味があることが説明されています。また、——線①直後には、医学的な意味の「意識」には「脳の反応」という意味があることが書かれています。それぞれの内容を盛り込んで、字数に合わせてまとめましょ。

※設問の指示や字数・文字指定に従つていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

## 問三 B1 具体化 関係づけ

——線②の次の段落に、「意識とは何かを知りたい——そう思つて研究を始めようと思つたら、あなたはまず、どんなこと

から考え始めるだろうか」とあり、まずはどういう方法で探求するかを決めることが大切であると述べられています。ただし、これに続く部分に「その前に考えるべきことがある」とあり、考へるべきことは「意識の何を研究したいのか」であるといふことが説明されています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

## 問四 B1 具体化 比較

シンプルで素朴な意識とはどのような意識なのかということを問う問題です。まず、——線③の後に「すべての意識のもとなる感覺」とすることをおさえておきましょ。続く段落で音楽と音の関係をふまえた説明があり、さらに続く部分で最も素朴でシンプルな意識について筆者が考察を進めています。9ページ上段に、「それは、たとえば『見えていい』という素朴な感覺だ」とあり、続く段落では「それなのに、そこに『見えている』という感覺が湧く。それらの感覺こそが、最も素朴で根源的な意識である」という形で「シンプルで素朴な意識」について述べられています。また、9ページ上段から下段にかけて「目に見えることだけではない」「五感だけではない」とあり、感情も意識の働きの産物であることが述べられています。以上のことから、ウが正解となります。ア「脳から出される指示」、イ「特別なことを何もしなくても頭に浮かんくる思考」、エ「心の中で一つにまとめあげられた情報」がそれぞれ誤つています。

## 問五

B1

## 具體化 関係づけ

ここまで意識の話をしていたところに8ページ下段で突然音楽の話が出てきています。続く段落で「さまざまな音楽があるのと同様に」と説明されていることに注目すると、音と音楽の関係を、シンプルで素朴な意識とそれらが組み合わされた複雑な意識の関係のたとえとして用いていることを表していることがわかります。「シンプルで素朴な意識」に当たる内容を字数条件と合わせて探しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

## 問六 B1 具体化 関係づけ

複雑な感情が脳の中で処理されることについて述べている部分を探しながら読み進めましょう。——線⑤の直後にはあてはまる部分がありませんが、9ページ下段に「複雑に見える感情も、実際には、視覚情報を処理するときと同様に電気信号に還元される」という表現が見つかります。ここから、複雑な感情は「電気信号」に変えられて処理されることがわかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

## 問七 B1 置換

「ただの容器」という表現は、素朴で根源的な意識がなくなつた場合の人間の身体について述べたものです。したがって、身体から意識がなくなつた状態を説明している部分を探せばよいことになります。本文最終段落で、「意識とは、すなわち、あなたそのものだ。それがなければ」と身体から意識がなくなつた

## た状態が説明されています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

## 問八 B1 具体化 比較

——線⑦について筆者が読者に「想像してみてほしい」と呼びかけています。どういうことが起ころかについての説明が続いていますから、——線⑦以降の文章をていねいに追いかけていきましょう。二つ後の段落に、「空中にぶかぶか浮いているあなたの意識から見て、あなたの身体はまるで他人のように見えるだろう。もしくは、あなたそつくりに作られたロボットのように見えるかもしない」という説明があります。これと照らし合わせると、エが正解となります。ア「本能が意識を誘導し」、イ「環境との相互作用が強まり」、ウ「必要以上の時間がかかるようになってしまう」がそれぞれ誤っています。

## 問九 B1 関係づけ 比較

(8)と同じ段落内にある「ロボットが処理する情報は光の波長だけである」に注目すると、ロボットは色の情報だけを感じしており、自分自身がその色を見ているという意識は持っていないことがわかります。したがって、ウが正解となります。

## 問十 B2 抽象化 比較

本文の内容と合っているものを選ぶ問題です。それぞれの選択肢が本文のどの部分の内容と対応しているかを考え、必ず本文にもどって選択肢と照らし合わせ、一つずつ正誤を判定します。

ウの内容は、9ページ上段から9ページ下段にかけて説明されていることと一致します。アは8ページ上段、イは8ページ下段、エは10ページ上段の内容とそれぞれ合っていません。

**【3】 A1 知識 比較**

故事成語の意味として最も適しているものを選ぶ問題です。それぞれの故事成語の意味だけでなく、どのような場面で使われ、どのような言葉とよく一緒に用いられるか、ということも合わせて覚えておきましょう。

**【4】 A2 知識 比較**

有名な文学作品と作者の組み合わせを答える問題です。できれば簡単なあらすじとともに覚えておくとよいでしょう。